

## 視 察 報 告 書

報告者氏名： 渡 辺 光 一

委員会名：総務常任委員会

期 間： 2年1月20日(月) ～ 1月21日(火)

視察都市及び視察項目

- ・横浜市「ユニークベニユーの展開について」
- ・NTT西日本（大阪市）「大阪データセンターについて」

### 【横浜市 ユニークベニユーの展開について】

ユニークベニユーとは歴史的建造物や文化施設、あるいは公的空間等で会議・レセプションを開催し、一般的な会場とは異なる特別感や、地域特性を演出できる会場のことを指し、会議などを誘致することで大きな効果を発揮するとされているため、日本政府観光局では、各地で積極的に取り組みを進めることを奨励しており、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字からMICEと呼び、その誘致活動においても「ユニークベニユー」は、全国的に注目されつつある。

横浜市は、会場となる場の提供だけでなくソフト（アトラクション等のコンテンツ）の面でも参加者が楽しめて、地域のイメージ向上につながる取り組みを行っており、訪日外国人を対象に野毛地区でのバーを巡る「野毛おもてなしナイト」や、近隣の鎌倉市とも提携し、ツアーを実施するなど、幅を広げてより充実した内容を組み立てている。

MICEによって来日した外国人と、単に観光で来日した外国人客を比べると、経済波及効果に大きな違いが表れるそうである。

例えば、訪日外国人1人あたりの支出額は15.6万円/人に対し、MICE開催による外国人1人当たりの消費額は33.7万円/人とのデータがある

また、間接消費や雇用誘発といった経済効果や社会的効果など、幅広く影響が表れるとされている。

このように、経済効果やシティセールス、都市イメージの新たな発信ツールとして非常に有効な手段であると感じ、昨年12月の一般質問でも提案をした。

猿島や三笠公園など、本市にもユニークベニューに相応しい“場”の提供は十分可能と思われる。

ライトアップされた記念館三笠をバックに演台でスピーチを行う等、レセプションが開催されれば、会にとっても効果的な演出となり、全国に向けた横須賀市のPRにもつながると考えられ、個人的にも横須賀らしい取り組みになると確信している。

実現に向けて積極的に取り組んでほしいと実感した。

#### 【NTT 西日本（大阪市） 大阪データセンターについて】

大阪データセンターは基礎免振構造を有しており、地上 9 階建てのビルに無電源装置や、ガスタービンによる自家発電機、蓄電池を有し、災害時にも強く、継続的な稼働が可能となっていて、万が一の際にも機能停止を避けられるようになっている。

建物自体が水害や地震等のリスクを避けた場所を選び建設されている。

24 時間、365 日、監視カメラや非接触 IC カード認証により、嚴重な大勢でセキュリティも万全である。

実際に館内を移動する際にも入退室管理システムや、生体認証装置、金属探知ゲートや、エレベータもカード認証によりロック解除が必須となっていた。

地中深くにケーブルを設置した通信環境は、NTT の特性とも言える。

映画やドラマで見るような嚴重な体制に最初は面食らったが、高度に機密性の高い重要情報を扱うため、これだけ高いレベルの管理は必要なのであろう。

建物に看板などもなく、外観からそれとは判明できず、明確な住所も知らされていない。

災害時はもちろん、サイバーテロなどあらゆる可能性を考慮し、大切な情報を守る必要があるため、こうしたデータセンターは有効であると感じるのだが、一方で、重要な情報管理を外部委託することの不安も拭えない。

本市の状況はここまでの体制とはなっていないが、情報管理の必要性は当然高まっているはずであろう。

そのためにも本市の情報管理を改めて見直すことはあってもいいのでは、と感じた。